

2024年10月30日作成 Ver.5

《情報公開文書》

硬膜動静脈瘻における Arterial spin labeling の静脈流出形態の評価

研究の概要

【背景】

硬膜動静脈瘻(dural arteriovenous fistula : DAVF)は硬膜動脈と静脈洞または皮質静脈との間の異常な接続をもつ動静脈シャント疾患です。この病気の診断、治療方針、術後評価は脳血管撮影が一般的に用いられます。しかし、この検査には放射線被ばく、造影剤使用、入院の必要性などのデメリットも存在します。Arterial spin labeling(ASL)法は造影剤を使用せずに組織の灌流を評価できるMRIの一撮影法です。この検査法が脳血管撮影の代替検査になるのではないかと考えています。

【目的】

本研究では、硬膜動静脈瘻患者さんの治療後の流出静脈を治療前後の脳血管撮影の画像とMRI画像(ASL)で評価をし、術後評価方法としてASLが有用かを検討することです。

【意義】

この研究はASLが脳血管撮影に代用されることで非侵襲的に術後評価ができ、患者さんの負担軽減につながる可能性があります。

【方法】

- 研究の対象となる患者さんの診療録や画像検査をもとに、手術前後における静脈流出路を脳血管撮影とASLで比較します。術前の脳血管撮影検査でみられる瘻孔部や脳静脈が開頭術や血管内術後において残存しているのか、消失しているのか、その際のASL高信号が残存したままか、消失しているかをエクセルファイルにまとめます。
- 脳血管撮影に対するASLの診断感度、特異度、陽性的中率、陰性適中率、ROC曲線、尤度比を算出します。

対象となる患者さん

本研究では、2012年1月1日から2023年12月31日の間に長崎大学病院で手術(脳血管内治療ならびに開頭術)を受けられた硬膜動静脈瘻患者さん

研究に用いる情報	
<p>●研究に用いる情報</p> <p>下記の情報を診療録より収集します。</p> <ul style="list-style-type: none">・年齢・性別・生年月日・日常生活自立度・画像所見（部位や特徴）・手術日・手術内容などについての既存情報・本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。	
情報の利用開始予定日	
<p>本研究は2024年11月7日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。</p> <hr/> <p>あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。</p> <p>ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。</p> <p>あらかじめご了承ください。</p>	
研究実施期間	
<p>研究機関長の許可日～2026年3月31日</p>	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 脳神経外科 氏名：諸藤 陽一 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7375
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
<p>【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】</p> <p>長崎大学病院 脳神経外科 諸藤 陽一 〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号 電話：095 (819) 7375 FAX 095 (819) 2000</p> <hr/> <p>【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）</p> <p>苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200 受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）</p>	